

国際ロータリー第2560地区  
ガバナーテーマ

「クラブと地区の  
変革をめざそう」

高田ロータリー今年の  
スローガン

「しなやかな変化で  
奉仕を高めましょう」



ロータリー：  
変化をもたらす

2017～2018年度

国際ロータリー会長 **イアンH.S.ライズリー**  
2560地区ガバナー **新保 清久**  
高田ロータリー会長 **橋詰 敏一**  
幹事 **田中 正人**

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号  
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534  
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp  
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員  
箕輪 賢一 堀井 靖功 渡邊 隆 山田 守  
小池 猛紀

## 第35回例会 ■ 3月30日(金)

No.35

### 会長挨拶 ● 橋詰 敏一



春を飛び越えて初夏の陽気で、100年ぶりとか報じられ温暖化によるものかと考えます。この陽気で一気に春爛漫となりそうで、梅、ハクモクレンは元より、我が儀明川のコヒガン桜も満開であります。ソメイヨシノもいよいよ開花したようで、例年より1週間は早く観桜会の後半の花が気がかりです。

つい先日でありましたが、ずいぶん経ったような気がするのは季節のせいでしょうか。平昌パラリンピックでは、日本勢が大活躍されました。しょうがいを持たれても強く生きておられる姿に感動させられます。

同じしょうがいを持たれた世界の天才がまた一人亡くなりました。イギリスの宇宙物理学者スティーブン・ホーキング博士です。3月14日に76歳でした。博士の宇宙の始まりについての「特異点定理」が有名です。また私も購入しましたが「ホーキング、宇宙を語る」は大ベストセラーとなり、宇宙への思いがより深まったのを感じました。「筋委縮症」という難病と付き合いながら、

活躍が続けられると共に、しょうがい者への理解を深める活動もされました。

人の遺伝は完全でなく不安定で、ある確率で先天性のしょうがいを持つとされています。病的には難病とされ数百にもおよびます。科学、医学の進歩は目まぐるしい所ですが、まだまだ解明されておられません。宇宙も生命も奥が深いです。報道されている優生保護法による不妊手術もそうであるように、無知（知識不足）が多くしょうがい者を生み出しました。我々は知識の無さに対し、常に謙虚であるべきと思います。

### 出席報告

出席率 94.64%

### メイクアップ

大谷光夫君・本山秀樹君・水上喜芳君・牧野章一君・佐藤教彦君・中田 正君（3/24PETS）  
大谷光夫君（3/26～27 会員基盤向上セミナー）  
大島 誠君（3/30 糸魚川中央 RC にて卓話）  
大谷光夫君・本山秀樹君・水上喜芳君・橋詰敏一君・中田 正君・佐藤憲二君・遠藤 巖君（3/31 大谷G年度スタッフ会議）

## 委員会報告

出席・ニコニコBOX委員会

古淵英一君——4月から長男が東京で就職することになりました。エンターテインメント事業を行うエイボックスに入社します。仕事と趣味が混在する世界のため、元気に頑張りたいと願っています。

高坂光一君——つい、この間までランドセルを背負っていたと思っていた娘も4月から晴れて社会人となります。初の東京一人暮らしに「大丈夫かな？」と思う日々です。(追)本人は遊びまくっている様です。たくましい!

大島 誠君——障がい者福祉施設「とも」本日竣工いたしました。

牧野会長エレクト——PETS 参加報告

## 会員インフォメーション



棚橋博史君——退会のご挨拶

## 幹事報告

配布物：週報No.34

回覧：国際ソロプチミスト上越広報「さくら19号」

## 会員卓話

### 上越地域を考えてみました



齋藤 俊幸 君

(上越ケーブルビジョン株式会社 代表取締役社長)

私は、これまで地域という言葉に多く触れる仕事をしてきましたが、〇〇地域という言葉は使い方が難しいと思っています。今日は上越を例に考えてみたいと思います。

地域という言葉は江戸時代のお殿様が治世した範囲のように共通項でくくられた範囲を意味していると思われませんが、自分の場所が全てであったため、他の地域のことは気にしていなかったのではないかと思います。地域が脚光を浴びたのは戦後復興を目指した国土開発が始まったころからではないかと思います。地域を対象に膨大な予算が配布されることとなったからです。開発計画上新潟は積雪寒冷地から東北に位置付けられ、他地域に先立って開発計画が作成されました。開発計画は地域別に作成されましたが、その法律も北海道と沖縄を除き現在では廃止され、中央からの予算配布ができないのか、地域の自立を促すためか、開発の言葉がなくなり広域地方計画となっています。

上越周辺の地域は、7世紀に福井・石川・富山・新潟・山形の範囲で高志(越)国と言われていました。その後越前・越中・越後となるわけですが、上越は最初は越中でした。鎌倉時代は関東、幕末は奥羽越列藩、明治の教科書は中部と様々エリア分けを経験し今日に至っています。今日でも省庁の出先機関では北陸であったり、関東であったり、東北であったりしています。

上越は人口20万人で新潟県内3番目の都市ですが、同規模の甲府市、山口市、鳥取市は県庁所在地としての機能を果たしています。上越市は重要港湾、新幹線駅、観光コンテンツとしての桜、近隣のリゾートと豊富な地域資源があります。新潟県内3番目の都市ではなく地域の中心として位置し機能が発揮できる状況にあると考えられます。むしろ、既存の枠組みではなく多方面の都市、企業と連携し新たな地域を創造していけるものと信じています。